

自叙自釋

若山エヒ志子

草土まきの下へあけゆくせせらぎの
一すぢ白き夕まぐれ時

季節に秋の二筋を
取りあげてすくしげな
り説明（従ひ、自作の）して見るこゝにソを
し
ます。

三句のつせせらぎはちよろちよろと流れ
る流い小川位に解していながけはよろしいで
せう。さうした小流れが、草土まきの下にそつ
て、流れてくるのであります。二句二句のつ下
へあけゆくといふ表現で、草に掩われた
光景が想像されることと思ひます、と云つて
も全部草に隠れてあるではなく、流れは流
れくして存在のけうきりしてあるのは勿論
、その中に流れて、一すぢ白きとある
所はそのミは説明せずして説明される